



こびとのおうちへ

第34回 山口県環境保全型農業フォーラム

# いま子どもに食べさせるものがない!? 地域再生のカギは有機給食から

## 2025年2月23日 日

### 10:00～16:00 (9:30 開場)

開催場所: KDDI維新ホール・会議室 定員200名 (裏面地図参照)

会員500円

会員外\*1500円 (\*当日入会可能。年会費2000円)

10:00～12:00 **基調講演**

### いま子どもに食べさせるものがない!? 地域再生のカギは有機給食から

講師: 吉田太郎さん 農業ジャーナリスト

13:30～16:00 **活動報告等**

- ・長門市・オーガニック・ビレッジ宣言と有機給食
- ・長門市・棚田の花段とdan dan kitchen
- ・東広島市・学生耕作隊から有機野菜の産直農家に



吉田太郎さん

主催: 山口県環境保全型農業推進研究会・山口県有機農業団体連絡協議会

共催: やまぐちの種子を守る会・ヤッタネ! やまぐち

後援: 山口県・山口市

## 基調講演のおもな内容

自然の摂理を考えると有機農業こそあたり前。気候変動と生物多様性の喪失が深刻化する中、有機農業への転換が危機を打開する鍵。欧州は2030年までに有機農業の面積を25%にする。グローバル化の時代が終わり、ローカルな価値を見直す時代に。コロナ禍の労働力不足で、欧州では収穫されない作物が畑で腐った。その反省からタネ、肥料といったものを地域内で確保する動きが本格化している。フランス、デンマーク、韓国、台湾と世界で有機給食が広まり、日本各地でも力強い動きがある。

### 講師・吉田太郎さんの紹介

1961年東京都生まれ。筑波大学自然学類卒。同大学院地球科学研究科中退。専攻は地質学。埼玉県、東京都および長野県の農業関係行政職員として勤務。長野県では農業大学校教授（生物学、土壌肥料学演習）のほか、有機農業推進担当職員として有機農業の啓発普及に従事した。定年退職後は晴耕雨読の生活をしつつ、フリージャーナリストとして活動。NPO法人日本有機農業研究会理事。同研究会の機関誌『土と健康』編集長。

最近の主な著作に『タネと内臓』『コロナ後の食と農』『土が変わるとお腹も変わる』（いずれも築地書館）、『有機給食スタートブック』（共著、農文協）『シン・オーガニック』（農文協）など。

## 活動報告 13:30~14:50

- 1 長門市のオーガニック・ビレッジ宣言と有機給食 (発表者未定)**  
長門市の有機農業推進の現状とこれからの取り組み。国の支援で有機給食も進めています。
- 2 棚田の花段とdan dan kitchen (和田あいこ・ゆや棚田景観保存会・副理事長)**  
長門市の油谷地区で、竹に覆われた棚田を復活させて、みんなのつどえる楽しい場づくり。
- 3 学生耕作隊から有機野菜の産直農家に (荒谷浩一・東広島市西条町)**  
山口かんぼ研の中村自然農園で2年間修行後、故郷で「あらちゃんファーム」を開設して活躍中。

会場は新山口駅に直結



### お問い合わせ

メール／tomoyasu@mx51.tiki.ne.jp  
FAX／0836-84-0422  
携帯／090-7121-1697(比嘉)

### 当日のその他のプログラム

会場では有機農産物やお弁当の販売  
農文協の本、吉田太郎さんの本も！  
12:00~13:30 おひるやすみ  
12:30~13:15 地域の種苗交換会  
(自慢の種苗をご持参ください)  
15:00~16:00 情報交換とまとめ

### 感染症防止対策

必要に応じ当日受付に掲示します。